

政策分析シート（令和2年度）

政策名	伝統文化の継承と都市間交流の推進	政策No	09	部名	地域文化スポーツ部		
				部長名	古瀬	内線	3700
関連部名	総務企画部						
行政評価事業体系	分野	V	文化創造都市				

目的

○区民が主役の芸術文化の振興により区民の幸福実感を高め、区の魅力を内外に発信すること、区民・生活・地域が芸術文化でつながるまちを創る。  
○有形・無形の文化財の保存や、郷土の歴史や地域について学ぶ機会の提供などにより、伝統文化の継承や新たな文化の創造に向かい、地域、区民と一体となって区の文化力を向上させる。

指

幸福実感指標名	指標の推移			指標に関する質問文
	29年度	30年度	元年度	
① 充実した余暇・文化活動、地域の人のふれあいの実感	2.53	2.51	2.59	充実した余暇・文化活動や地域の方とのふれあいのある生活が送れていると感じますか？
② 興味・関心事への取り組み	3.05	3.12	3.14	興味・関心のあることに取り組むことができていると感じますか？
③ 生涯学習環境の充実	3.01	3.06	3.07	生涯にわたって学習できる環境が充実していると感じますか？
④ 地域への愛着	2.90	2.88	2.91	荒川区の文化や特色に愛着や誇りを感じますか？
⑤ 文化的寛容性	2.63	2.59	2.68	文化や言語が異なる人々への思いやりや寛容さがあると感じますか？
⑥				
⑦				

標

政策の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
	29年度	30年度	元年度	2年度見込み	目標値(8年度)	
① 荒川ふるさと文化館利用者数（人）	20,059	19,897	20,085	15,700	25,000	展示室観覧者＋伝統工芸ギャラリー鑑賞者
② 伝統技術展参加職人数（人）	65	65	65	—	68	
③ 文化祭来場者数（人）	13,643	10,342	11,800	9,500	21,000	
④ 地域振興事業来場者数（人）	42,241	44,950	38,734	23,406	55,000	芸術文化振興財団（ACC）が行う芸術文化・地域振興事業
⑤ 国内交流都市との連携事業数（事業）	26	27	30	10	30	
⑥ 海外都市交流事業参加者数（人）	305	310	177	100	320	バスハイク・華道・茶道・着付・料理教室、ウィーン派遣高校生等
⑦						

（単位：千円）

行政コスト計算書

勘定科目	30年度	元年度	差額	勘定科目	30年度	元年度	差額
給与関係費	143,469	151,632	▲ 8,163	地方税等	0	0	0
物件費	418,443	367,604	▲ 50,839	国庫支出金	10,896	3,757	▲ 7,139
維持補修費	2,843	38,534	▲ 35,691	都支出金	3,205	7,102	▲ 3,897
扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
補助費等	189,056	184,105	▲ 4,951	使用料及び手数料	5,116	4,522	▲ 594
減価償却費	183,169	183,169	0	その他行政収入	20,733	25,461	▲ 4,728
不納欠損・賞引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	39,950	40,842	892
賞与・退職給与引当金繰入額	18,497	12,511	▲ 5,986	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 916,365	▲ 897,951	18,414
その他行政費用	838	1,238	▲ 400	金融収支差額(d)	▲ 3,786	▲ 3,536	250
行政費用合計(b)	956,315	938,793	▲ 17,522	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 920,151	▲ 901,487	18,664
特別費用(g)	9,400	0	▲ 9,400	特別収入(f)	0	1,912	1,912
特別収支差額(f)-(g)=(h)	▲ 9,400	1,912	11,312	当期収支差額(e)+(h)	▲ 929,551	▲ 899,575	29,976

貸借対照表

勘定科目	30年度	元年度	差額	勘定科目	30年度	元年度	差額
収入未済	0	0	0	流動負債	196,169	190,700	▲ 5,469
不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
その他の流動資産	0	0	0	特別区債	190,417	190,533	116
有形固定資産	3,794,804	3,630,339	▲ 164,465	賞与引当金	5,752	167	▲ 5,585
土地	1,618,879	1,618,879	0	その他の流動負債	0	0	0
建物	8,149,379	8,152,153	▲ 2,774	固定負債	1,550,251	1,300,689	▲ 249,562
建物減価償却累計額	▲ 5,973,455	▲ 6,140,693	▲ 167,238	特別区債	1,490,096	1,299,563	▲ 190,533
工作物等	0	0	0	退職給与引当金	60,155	1,126	▲ 59,029
工作物等減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
無形固定資産	0	0	0	負債の部合計	1,746,420	1,491,389	▲ 255,031
建設仮勘定	0	0	0	正味財産	3,304,047	3,385,768	81,721
その他の固定資産	1,255,663	1,246,818	▲ 8,845	正味財産の部合計	3,304,047	3,385,768	81,721
資産の部合計	5,050,467	4,877,157	▲ 173,310	負債及び正味財産の部合計	5,050,467	4,877,157	▲ 173,310

財務諸表に関する特徴的事項等

○伝統工芸技術の保存・継承支援や交流都市等との都市間交流を行っており、イベント経費や文化施設の指定管理料といった物件費が約4割を占めている。  
○その他行政費用は、彫刻設置に伴う工事費、行政収入その他は、指定管理者利益納付金等である。  
○貸借対象表に計上されている有形固定資産は文化施設に関するものである。

## 政策の現状・課題・今後の方向性

現状	<p>○区民が優れた芸術文化に身近なところでふれ、楽しめるよう芸術文化団体、ACC、東京藝術大学等と連携して、芸術文化の充実を図っている。</p> <p>○区では、国内外の都市と交流し、イベントへの相互参加、災害時相互応援協定の締結、高校生相互派遣、自然体験を通じた交流など様々な分野において事業を展開している。</p> <p>○区に伝わる有形・無形の文化財の保存、伝統工芸技術の継承支援をするとともに、区民に伝統文化のすばらしさを伝えるための展示や体験事業等を行っている。</p>
課題	<p>○子どもから高齢者、障がい者をはじめ、社会的・経済的に弱い立場にある方々に対する文化芸術の鑑賞環境の充実、体験機会の充実を図る必要がある。</p> <p>○東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、芸術文化活動や国際文化理解、都市交流等を一層、推進する必要がある。</p> <p>○様々な交流のかたちがある中、それぞれの地域性に応じ、お互いにとって有益となる交流を推進する必要がある。</p> <p>○芸術文化の力によるまちづくりのため、教育、観光、福祉等の分野と一層連携を図るとともに、俳句文化・歴史・伝統工芸技術などの地域の魅力を積極的に発信する必要がある。</p>
今後の方向性	<p>○障がい者のアート展や子どもたちを対象としたワークショップなど、誰もが身近な場所で気軽に参加ができる機会を提供する。</p> <p>○オリンピック・パラリンピックを契機とし、大会後もレガシーとなるような事業を文化芸術分野にとどまらず、他の分野とも連携して展開する。</p> <p>○国内外の都市間交流については新しい生活様式に対応した交流事業を構築し、郷土や地域文化に対する誇りと愛情を深めるとともに、異文化に対する理解を促進していく。</p> <p>○先人たちが創り育んできた伝統文化の保存や継承に努めるとともに、時代に即した新たな視点で、伝統と現代性が調和した文化振興を推進していく。</p> <p>○令和元年度の年度末に発生した新型コロナウイルスの動向を踏まえ、感染症対策を徹底して事業を実施していく。</p>

## 政策を構成する施策の分類

施策名	政策推進のための分類		分類についての説明・意見等
芸術文化の振興	重点的に推進	重点的に推進	芸術文化の力を区の施策に活用することにより、地域の活性化や区の情報発信力の強化を目指すとともに、区民が主体となる取り組みを推進し、より荒川区に根ざした芸術文化の振興を図る。
国内・海外都市との交流の推進	重点的に推進	重点的に推進	国内外の交流都市の地域特性を活かし区民主体の幅広い交流を行うことに加え、区内在住外国人の支援や交流の充実を図る。
伝統的文化的保存と継承	重点的に推進	重点的に推進	区における文化財、史跡、伝統工芸技術の保存・継承において重要であり、引き続き推進する。